

病防第16号  
令和8年（2026年）7月1日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）  
このことについて、病害虫発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

## 特殊報

令和8年度（2026年度）病害虫発生予察特殊報第1号  
令和8年（2026年）7月1日  
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 ナシ胴枯細菌病
- 2 学 名 *Dickeya fangzhongdai*
- 3 発生作物 ニホンナシ（バラ科）

### 4 発生確認の経過

令和7年（2025年）10月、県内のナシ栽培園で、主幹部から主枝の基部にかけて表皮が水浸状に腐敗している1樹が確認された。主幹の病患部表面からは赤褐色の樹液が漏出し（写真1）、主枝内の形成層は褐変していた（写真2）。

当県果樹研究所において当該検体の病患部から*Dickeya*属細菌が分離された。分離した菌を健全なナシの切り枝に接種したところ、形成層の褐変と表皮の腐敗が再現された。そのため、農林水産省門司植物防疫所に当該菌株の同定を依頼した。その結果、本県では未確認のナシ胴枯細菌病菌（*Dickeya fangzhongdai*）と同定された。

### 5 国内の発生状況

ナシ胴枯細菌病（旧名：さび色胴枯病）は、国内では千葉県で初めて確認されて以降、福島県、秋田県、愛知県、高知県、鹿児島県、岐阜県、島根県及び茨城県で特殊報が発表されている。本病の病原菌は、*Dickeya dadantii*と*Dickeya fangzhongdai*（いずれも旧分類：*Erwinia chrysanthemi*）の2種とされている。

### 6 本病の特徴

#### （1）発生生態

病原菌は土壌中に広く存在し、夏期から秋期にかけて発生しやすいとされている。樹皮の傷口や土壌から根に侵入し感染することが確認されている。

#### （2）病徴

幹や枝の表面が暗色水浸状に腐敗し、赤褐色の樹液が流れ出す。病患部はアルコール臭を伴い、樹皮下は褐変する。やがて樹液は乾いてさび色に変色する。患

部の上枝は落葉し、ゆっくりと枯死に至る。

## 7 防除対策

本病に登録のある農薬はない（令和8年6月22日現在）ため、以下の耕種的対策を行う。

- (1) 感染樹は伝染源となるため、発病部位を除去するか伐採する。
- (2) 既発生園でのせん定等の刃物を使用する作業は、他の園地の後に行う。発生樹跡周辺では、エタノール等で器具を消毒しながらせん定等の作業を行う。
- (3) 排水性が悪い園地で発生しやすいとされているため、排水対策を施す。



写真1 樹液の漏出



写真2 形成層の褐変

熊本県病害虫防除所  
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)  
担当：清永  
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493